

魚眼カメラ

来県二年近くになる琉
大美術工芸科講師の奥田
実さん。沖縄で初の個展
(物産センター画廊で27
日まで)を開いているが、
「器」中心の陶展しか見
慣れない県内ファンに
とって、楽しく、同時に
アッと驚かされる内容に
満ちている。



奥田 実さん

「初めは『用』を念頭
に入れてつくっていた
が、イメージが次々エ
スカレートしてきた」と
いうだけに、型押しから
生まれた変幻自在なオブ
ジェたちがおどつてい
る。
はっている獣たち、ゆ
らゆら浮いているクラ
ゲの群れ、亀の足を借り
てそろそろ歩き出す
器々。ツル首のクビがク
ルッとまいていたり。そ
して……

想像力に乏しきお方で

も、それなりのイマジン
ーションが容易にふくら
む。焼き物への認識が、
こもも変えられるとは。

そういえば、個展の案内
状に「獣足・鼎足(てい
そく)・蛇足」があった。
作品を見て大納得。

とはいえ、遊んでだけ
もいられない。きちっと
した三鳥手の壺類、織部
の花器など、衿

(えり)を正し
た作品も並ぶ。
た作品も並ぶ。
原材料はいずれ
も県外から取り

寄せたが、白化
粧、緑釉、灰釉
がしっとりとし
た発色を見せて
いる。

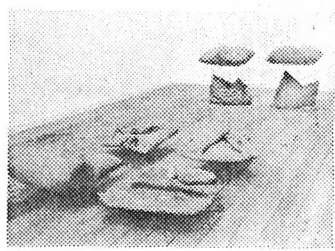
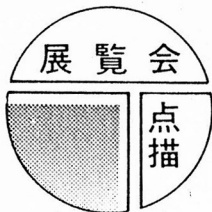
陶芸を教えて
いる大学の先
生。初の個展。
肩に力を入れた

「大作」がずら
りか。勝手に思い込
んでいたら、さりげな
くかわされた。準備も「

構想は半年前からま
めたが、着手は「三カ
月ほど前から」と。怠け

の性分でもないだろう
が、泡盛でも飲んでゴロ
ッとなるのが何より、と
いう。

イメージが次々エスカレート



奥田美クレイ・ワーク展
(5日〜28日、画廊展) 従
来の焼き物の持つイメージを
払しょく、大胆に転倒させた
陶のオブジェを展示し写真。
赤土、白土、磁器土を素材
に酸化ケリムや顔料を加えた
泥水をスポンジに浸み込ませ
る。折り曲げたり、ふくらみ

を持たせたり、多様な造形を
追求。それを一〇〇度前後
で焼き上げたオブジェが画廊
空間に浮遊する。
また身体の一部を形どり、
オブジェにはめ込んでみた
り。未発見の陶の世界を開示
する新しい試みか。